

第4回

蓄音機 コンサート Concert

プログラム

1

メンデルスゾーン「歌のつばさに」

●演奏● ハイフェッツ

フェリックス・メンデルスゾーンは、1809年2月3日、ハンブルクの富裕な銀行家アブラハム・メンデルスゾーンの息子として生まれる。文豪ゲーテ、ロベルト・シューマンとも、親友、良き理解者の間柄である。一度見た楽譜や一度聞いた音楽を完璧に記憶する能力を有していたという。伝わっている逸話の1つとして、代表作の1つである『夏の夜の夢』序曲の楽譜を引越す際に紛失してしまうも、記憶だけを頼りに全てまた書き出して見せた、というものが残っている。



フェリックス・メンデルスゾーン

『歌のつばさに』はメンデルスゾーンの作った歌曲の中で飛びぬけて有名な曲で、曲はハイネの詩に付けられている。明るく流れるようなメロディで、インドへの憧れを描いている。テノールで歌われたり、ソプラノで歌われたり、そのほかヴァイオリン独奏に編曲されたりと、いろいろな形で演奏されるが、このメロディの美しさがこの曲のいちばんの魅力である。



ヤッシャ・ハイフェッツ

●演奏●

ヤッシャ・ハイフェッツ
(1901年～1987年)
20世紀を代表するヴァイオリニストであるハイフェッツは、ロシア帝国領ビルナ（現在のリトアニアの首都）にユダヤ人として生まれた。3歳でヴァイオリンを始め、神童と呼ばれた。

2

ショパン「マズルカ」

●演奏● ホロヴィッツ

フレデリック・フランソワ・ショパンは、ポーランド出身の前期ロマン派音楽を代表する作曲家。当時のヨーロッパにおいてもピアニストとして、また作曲家として有名であった。その作曲のほとんどをピアノ独奏曲が占め、ピアノの詩人とも呼ばれる。『マズルカ』は、ポロネーズと並ぶショパンの祖国の民族舞曲。



フレデリック・ショパン



ウラディミール・ホロヴィッツ

●演奏●

ウラディミール・サモイロヴィチ・ホロヴィッツ
(1903年～1989年)
ウクライナ生まれのアメリカのピアニスト。

3

シューマン「月夜」

●歌● フィッシャー・ディスカウ

ロベルト・アレクサンダー・シューマンはドイツの作曲家、音楽評論家。ロマン派音楽を代表する一人。名ピアニスト、クララ・シューマンは妻である。ピアノ曲ばかりを作曲してきたシューマンだったが、1840年には歌曲の作曲に熱中し、1年ほどの間に『詩人の恋』、『リダークライス』作品24と作品39、『女の愛と生涯』などを続々作曲した。1853年9月30日、シューマン家に当時20歳であったヨハネス・ブラームスが訪問し、彼は自作のソナタなどをシューマンとクララに弾いて聴かせたが、これに対してシューマンは久しぶりに評論を書き、『新しい道』という表題でその若者を強く賞賛し、未来を予言した。ブラームスは晩年のシューマンの希望の星であった。



ロベルト・シューマン

4

バッハ「ジーク組曲」

●演奏● カザルス

ヨハン・ゼバスティアン・バッハは、18世紀に活動したドイツの作曲家・器楽演奏家。特に鍵盤楽器の演奏においては高名で、当時から即興演奏の大家として知られていた。西洋音楽史上における存在の大きさから、「音楽の父」と称されることもある。ベートーヴェン、ブラームスとともに“ドイツ三大B”と呼ばれる。



ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

5

シューベルト 曲未定

フランツ・ペーター・シューベルトはオーストリアの作曲家。各分野に名曲を残したが、とりわけドイツ歌曲において功績が大きく、「歌曲の王」と呼ばれることもある。



フランツ・シューベルト

♪この他に、
歌謡曲のレコードもかけます♪

出典・参考：

- フリー百科事典 Wikipedia (ウィキペディア)
- OEKfan (<http://oekfan.web.infoseek.co.jp/>)
- ショピニストへの道～ショパンを極めよう～ (<http://www.10.plala.or.jp/frederic3/index.html>)

